

2019年度「運動部活動改革プラン」公開シンポジウム



日時	令和2年1月24日(金) 16時20分～17時50分
会場	大阪体育大学 開学50周年記念館(L号館201大教室)
参加者	350人(教委、一般教職員、本学教職員・大学院生、体育学部・教育学部生ほか)
内容	別紙、リーフレット参照

はじめに、「運動部活動改革プラン」事業の研究代表である藤本教授が開会の挨拶を行う。

続いて、研究チームプロジェクトチーム・リーダーの中尾准教授が本事業の趣旨について、その後、第2回養成セミナーを兼ね「部活動指導員制度と新学習指導要領」と題して、学校教育における部活動の位置付けの変遷をふまえ現状や課題、また部活動指導員制度について15分程の講話を行う。その資料として、参加者一人一人に、「運動部活動での指導のガイドライン(平成25年、文部科学省)」を内包した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(平成30年、スポーツ庁)総24頁を配付し、あらためて周知を行った。

次に、パネルディスカッション形式で「部活動指導員・外部指導者の実態」として30分間程発表や協議を行った。具体的には、部活動指導員として大阪府岸和田市立北中学校のバスケットボール部を指導する体育学部3年男性、外部指導員として大阪府熊取町立熊取南中学校の剣道部を指導する体育学部の3年女性、学生ボランティアとして大阪府岸和田市立北中学校のバスケットボール部を指導する体育学部3年男性(ラグビーフットボール経験者)が、思いの熱い体験談を語った。コーディネーターの小林准教授から、指導を行うようになったきっかけ、またやりがいなど問われた。

最後に、3つの府市長の教育委員会の立場から報告がなされた。1番目に、大阪府教育庁の指導主事から、大阪府の事業として外部指導員は有償ボランティアとして1回当たり2,650円で年間30回程度であること。また、平成30年度から部活動指導員制度を行う。指導員は顧問になれます。試合の引率も行っています。報酬は1時間1,600円で一か月に約40時間実施してもらっている。138全日制高校で10校に配置したなどについて報告された。2番目に、大阪府の熊取町教育委員会理事より、体育大学学生は中学生へのスポーツ指導とか誘うと眼がイキイキしている、これは一緒に活動したいと考えて大阪体育大学スポーツ局のDASHプロジェクトと協定を結んだ。先ほどシンポジウムで発表した学生には剣道の指導でお世話になっているし、生徒たちや教職員にとっても好評である。教師としての人間性や資質を持ち合わせており、是非熊取町の教員になってほしいし、もっともっと指導に来てほしい旨の報告があった。しかし、熊取町としては現状、部活動指導員制を行う予定はないとのことである。3番目に、大阪市教育委員会指導部の首席指導主事より、大阪府立中学校の運動部参加率は、生徒男女合わせて約55%で、設置数は1,060部ある。市内に130中学校に運動部・文化部あわせて1,500部を超える部活動が設置されている。本市教員の意識調査によれば4分の1が顧問をしたくないというように考えていることが分かった。調整を図りながら、生徒の意識も考慮し、ガイドラインに沿いながら進めているとの報告であった。

2020年3月2日版